

手賀沼流域

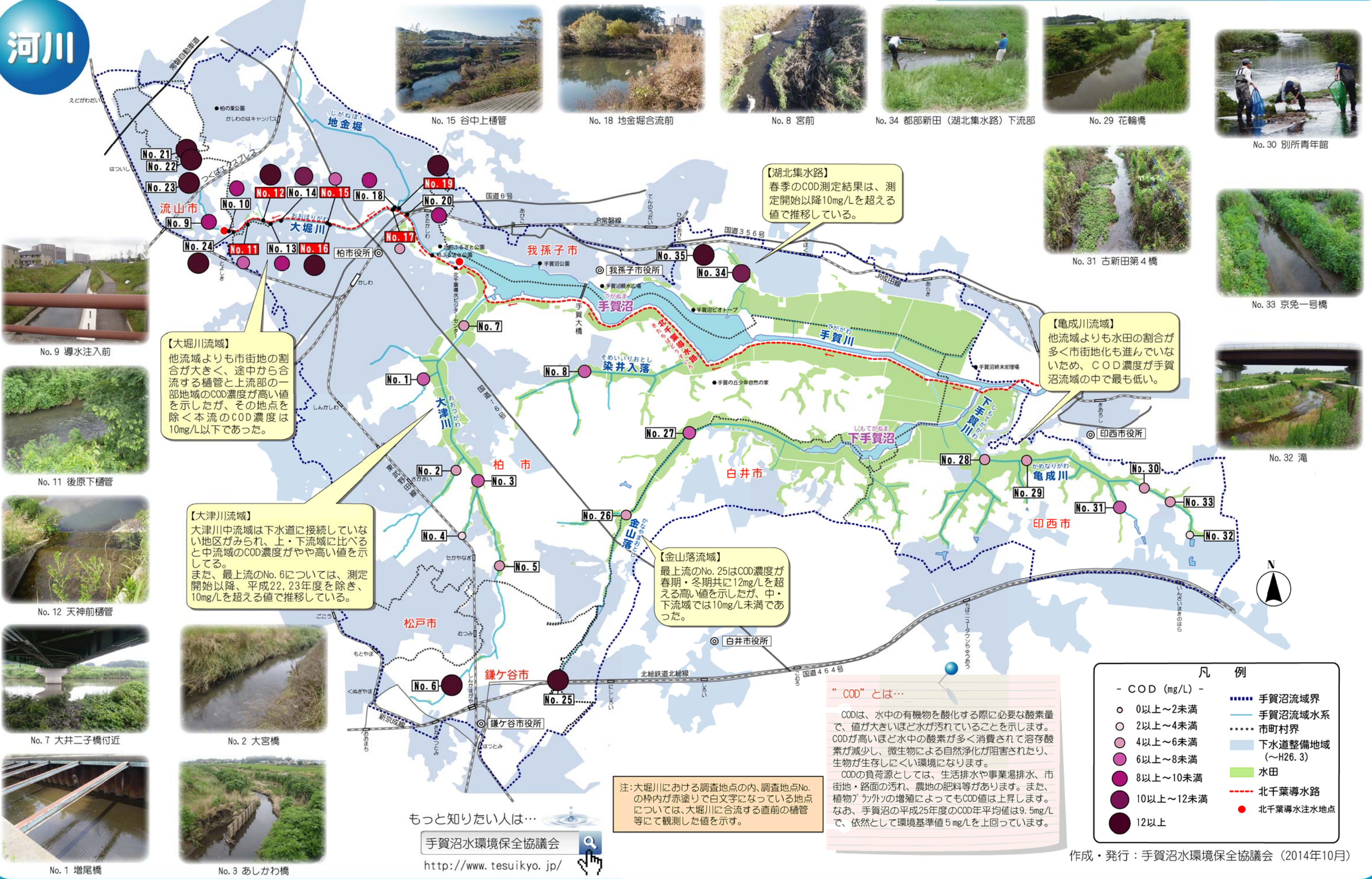
協働調査結果(平成25年度)

河川

手賀沼流域の各河川調査地点で、平成25年度に実施した春季・冬季のパックテストによるCOD濃度調査結果の平均値をまとめました。

【参加団体】

我孫子の文化を守る会、あびこ野鳥を守る会、アルバトロスヨットクラブ、印西ウェットランドガイド、印西市環境推進市民会議、エコライフあびこ、江戸川大学、NPOせつげんの街、大津川をきれいにする会、大堀川の水辺をきれいにする会、岡発戸・都部の谷津を愛する会、柏市環境保全協議会、鎌ヶ谷・大津川を清流にする会、亀成川を愛する会、沼南手賀沼ボランティア会、白井の自然を考える会、手賀沼にマジジミとガシヤモクを復活させる会、船戸の森の会、心れあい手賀沼の会、緑水会
*五十音順
柏市、我孫子市、松戸市、印西市、流山市、鎌ヶ谷市、白井市、千葉県(事務局:千葉県水質保全課)



【大堀川流域】
他流域よりも市街地の割合が大きく、途中から合流する樋管と上流部の一部地域のCOD濃度が高い値を示したが、その地点を除く本流のCOD濃度は10mg/L以下であった。

【大津川流域】
大津川中流域は下水道に接続していない地区がみられ、上・下流域に比べると中流域のCOD濃度がやや高い値を示している。
また、最上流のNo. 6については、測定開始以降、平成22、23年度を除き、10mg/Lを超える値で推移している。

【金山落流域】
最上流のNo. 25はCOD濃度が春期・冬期共に12mg/Lを超える高い値を示したが、中・下流域では10mg/L未満であった。

【湖北集水路】
春季のCOD測定結果は、測定開始以降10mg/Lを超える値で推移している。

【亀成川流域】
他流域よりも水田の割合が多く市街地化も進んでいないため、COD濃度が手賀沼流域の中で最も低い。

"COD"とは…
CODは、水中の有機物を酸化するために必要な酸素量で、値が大きいほど水が汚れていることを示します。CODが高いほど水中の酸素が多く消費されて溶存酸素が減少し、微生物による自然浄化が阻害されたり、生物が生存しにくい環境になります。
CODの負荷源としては、生活排水や事業場排水、市街地・路面の汚れ、農地の肥料等があります。また、植物プランクトンの増殖によってもCOD値は上昇します。なお、手賀沼の平成25年度のCOD年平均値は9.5mg/Lで、依然として環境基準値5mg/Lを上回っています。

凡例

- COD (mg/L) -
- 0以上~2未満
- 2以上~4未満
- 4以上~6未満
- 6以上~8未満
- 8以上~10未満
- 10以上~12未満
- 12以上
- 手賀沼流域界
- 手賀沼流域水系
- 市町村界
- 下水道整備地域 (~H26.3)
- 水田
- 北千葉導水路
- 北千葉導水注水地点

注:大堀川における調査地点の内、調査地点No.の枠内が赤塗りで白文字になっている地点については、大堀川に合流する直前の樋管等にて観測した値を示す。

もっと知りたい人は…
手賀沼水環境保全協議会
<http://www.tesuikyo.jp/>